



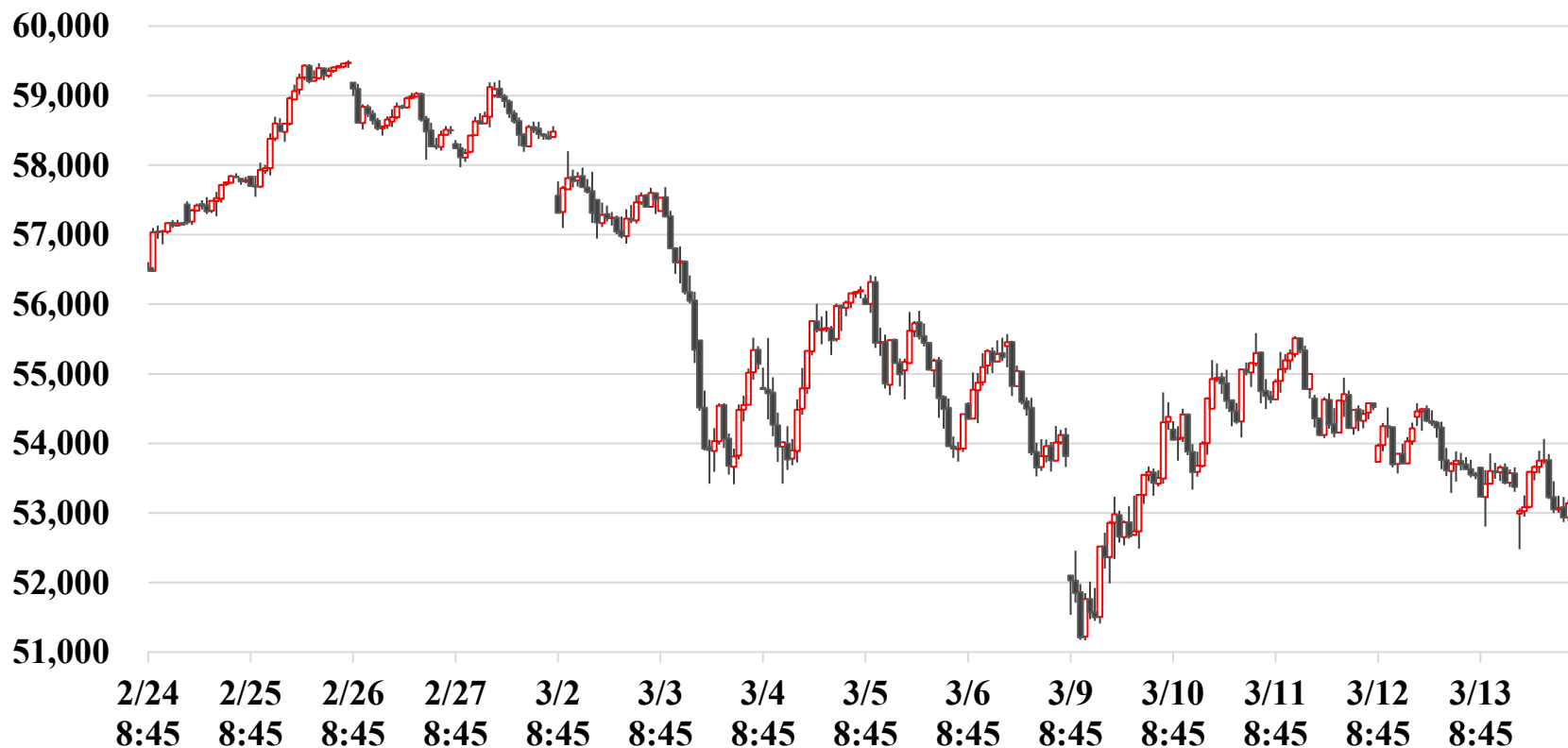
Simplex Institute

相場下落へのヘッジの 有効性検証

2026年 3月

「イラン戦争」による下落(2026年3月)

日経ミニ6月限2026年2月24日～3月13日時間足



株やETFを保有していたら、この下落に際し「先物によるヘッジ」や「プットによるヘッジ」は満足に機能したか？

「下落ヘッジ」の検証

相場大幅下落に際して、以下について検証する

- (1) 先物売りでの「ヘッジ」
- (2) プット買いでの「ヘッジ」
- (3) ポジティブ・ガンマの「ダイナミック・ヘッジ」
- (4) ネガティブ・ガンマの「ダイナミック・ヘッジ」

先物による株ポートフォリオ「下落ヘッジ」

ヘッジ実施

状況:2026年3月2日(月), 株式を 3銘柄保有

イラン戦争で日経平均は大幅下落が予想される

希望:保有する株式ポートフォリオの下落リスクをヘッジ(回避・軽減)したい

戦略:株式時価総額に相当する日経micro 6枚を売り, 下落終了後に買戻す

銘柄			2026/3/2 15:30		2026/3/9 15:30		損益
コード	名称	株数	価格	持高	価格	持高	
7203	トヨタ	300	3,944.00	1,183,200	3,393.00	1,017,900	-165,300
8306	三菱UFJFG	400	2,820.00	1,128,000	2,665.00	1,066,000	-62,000
8031	三井物産	200	6,040.00	1,208,000	5,722.00	1,144,400	-63,600
	現物株合計			3,519,200		3,228,300	-290,900
	6月限micro	-6	57,260	-3,435,600	52,365	-3,141,900	+293,700
	合計						+2,800

ヘッジはほぼ機能した

先物による株ポートフォリオ「ヘッジ後」

ヘッジ後

状況:2026年3月9日(月)にいったん底入れし、日経平均はやや安定

銘柄			2026/3/9 15:30		2026/3/13 15:30		損益
コード	名称	株数	価格	持高	価格	持高	
7203	トヨタ	300	3,393.00	1,017,900	3,370.00	1,011,000	-6,900
8306	三菱UFJFG	400	2,665.00	1,066,000	2,656.00	1,062,400	-3,600
8031	三井物産	200	5,722.00	1,144,400	5,828.00	1,165,600	21,200
	現物株合計			3,228,300		3,239,000	+10,700

この期間の損益とヘッジ実施中の損益の合計は

$$2,800 + 10,700 = 13,500 \text{円}$$

となり、イラン戦争による下落(まだその最中ではあるが)によって「利益」を生んだとも言える

先物による「下落ヘッジ」タイミングのコツ

ヘッジ開始と終了のタイミングの理論はないが、経験論として以下の通り

(1) 先物売りヘッジ開始のタイミング

下落が始まってからしかヘッジを開始できないが、いつでも良い
その結果、「出遅れる」ことは避けられないが気にしないこと

→ 何もしないで相場下落をただ眺めているよりはマシ

(2) 先物売りヘッジ終了のタイミング

相場が「底を打って上昇を始めた」と感じたらそれが終了のタイミング
「底打ち」の兆候は、「出来高の増加」と「IVの低下」

これらを感じたときはすでに相場は上昇し始めているものだが
とにかくヘッジを止める

また、ヘッジを開始した水準に相場が戻ったら、いったんヘッジを止める

→ ヘッジ終了後、市場が再び下落を始めたら、またヘッジすればよい

プットによる株ポートフォリオ「下落ヘッジ」

ヘッジ実施

状況:2026年3月2日(月), 株式を 3銘柄保有

イラン戦争で日経平均は大幅下落が予想される

希望:保有する株式ポートフォリオの下落リスクをヘッジ(回避・軽減)したい

戦略:株時価総額の1%程度の日経ミニプットを買い, 下落終了後に売戻す

銘柄			2026/3/2 15:30		2026/3/9 15:30		損益
コード	名称	株数	価格	持高	価格	持高	
7203	トヨタ	300	3,944.00	1,183,200	3,393.00	1,017,900	-165,300
8306	三菱UFJFG	400	2,820.00	1,128,000	2,665.00	1,066,000	-62,000
8031	三井物産	200	6,040.00	1,208,000	5,722.00	1,144,400	-63,600
	現物株合計			3,519,200		3,228,300	-290,900
	3月限52500Put	2	165	33,000	1,600	320,000	+287,000
	合計						-3,900

ヘッジはほぼ機能した

プットによる「下落ヘッジ」タイミングのコツ

ヘッジ開始と終了のタイミングの理論はないが、経験論として以下の通り

(1) プット買いヘッジ開始のタイミング

下落が始まる前でもいつでもヘッジは開始(プット買い)できるが
週末前など不安を感じたとき

IVがすでに高ければ(50%以上)プットではなく先物を使うのもあり

→ 相場をずっ〜と見ていられない人にはお勧め

(2) プット買いヘッジ終了のタイミング

相場が「底を打って上昇を始めた」と感じたらそれが終了のタイミング
「底打ち」の兆候は、先物同様「出来高の増加」と「IVの低下」
これらを感じたときはすでに相場は上昇し始めているものだが
とにかくヘッジを止める

→ ヘッジ終了後、市場が再び下落を始めたなら、またヘッジすればよい

ポジティブ・ガンマのダイナミック・ヘッジ

ポジティブ・ガンマのダイナミック・ヘッジ実施

状況:2026年3月2日(月) 15時00分, 3月先物は 58,000円近辺

イラン戦争勃発, 原油価格高騰で IV 上昇を予想

戦略:OTMプット(行使価格 55000円)を買い, 日経microでヘッジ

毎日15時頃にリヘッジし IV の上昇を待つ

日付	55000プット価格・リスク・パラメタ							OP損益(千円)				micro損益(千円)		損益(千円)		
	micro	価格	IV	Δ	Γ	TD	V	Δ	Γ	TD	V	売買	枚数	損益	日次	累積
3月2日	58,000	375	36.0%	-0.19	0.000075	-44.4	26.6	0	0	0	0	19	19	0	0	0
3月3日	56,295	755	36.0%	-0.33	0.000110	-61.4	33.5	324	109	-44	0	14	33	-324	56	56
3月4日	54,035	1,985	43.3%	-0.59	0.000107	-79.8	32.5	746	281	-61	244	26	59	-746	484	540
3月5日	55,375	1,085	39.5%	-0.44	0.000124	-80.6	31.8	-791	96	-80	-124	-15	44	791	-109	431
3月6日	55,560	950	40.5%	-0.42	0.000114	-88.0	29.4	-81	2	-81	32	-2	42	81	-54	377
3月9日	52,725	2,540	47.3%	-0.81	0.000100	-92.4	14.8	1,191	458	-264	200	39	81	-1,191	399	777
3月10日	54,200	1,300	44.1%	-0.64	0.000179	-141.1	17.6	-1,195	109	-92	-47	-17	64	1,195	-45	731
3月9日までに IV は約 11% 上昇している						合計 =		194	1,055	-623	305			-194		731

ズボラにリヘッジ(日に一回)でもガンマの利益が TD の損失を補えた
マメに相場観良くリヘッジしていたら, もっと利益は出せたかもしれない

ネガティブ・ガンマのダイナミック・ヘッジ

ネガティブ・ガンマのダイナミック・ヘッジ実施

状況:2026年3月4日(月) 15時00分, 3月先物は 54,000円近辺

イラン戦争勃発で IVは 43%まで上昇

戦略:ATMプット(行使価格 54000円)を売り, 日経microでヘッジ

毎日15時頃にリヘッジし IVの下落を待つ

日付	micro	54000プット価格・リスク・パラメタ						OP損益(千円)				micro損益(千円)			損益(千円)	
		価格	IV	Δ	Γ	TD	V	Δ	Γ	TD	V	売買	枚数	損益	日次	累積
3月4日	54,035	1,620	49.2%	0.48	-0.000097	93.2	-33.3	0	0	0	0	-48	-48	0	0	0
3月5日	55,375	770	42.5%	0.33	-0.000106	79.7	-29.2	643	-87	93	225	15	-33	-643	207	207
3月6日	55,560	635	42.7%	0.30	-0.000108	82.8	-26.3	61	-2	80	-5	3	-30	-61	74	281
3月9日	52,725	1,990	58.1%	0.65	-0.000120	153.2	-19.9	-851	-434	248	-406	-35	-65	851	-505	-224
3月10日	54,200	680	41.5%	0.45	-0.000203	140.1	-18.6	959	-131	153	330	20	-45	-959	351	128
3月11日	55,000	370	51.1%	0.30	-0.000177	194.7	-13.2	360	-65	140	-179	15	-30	-360	-50	77
3月12日	54,240	380	50.2%	0.42	-0.000320	320.6	-9.6	-228	-72	258	11	-12	-42	228	218	296
3月13日	52,909	1,091	0.0%	1.00	0.000000	0.0	0.0	-559	---	---	---	---	---	559	-152	144
注):12日の Γ , TD, V の損益は補正済						合計 =	386	-790	972	-24				-386		144

ズボラにリヘッジ(日に一回)して TDの利益で逃げ切った

マメに相場観良くリヘッジしていたら, 先物の損失で利益は望めない

さらなる勉強のために

大阪取引所から公開されているサイト

『OSE先物・オプション シミュレーター』

(<https://www.fopstudy.com/>)

- (1) 無料で先物・オプション取引を体験
- (2) ゲーム感覚で楽しく学習
- (3) 本格的な取引画面
- (4) 解説動画付きで分かりやすい

講師プロフィール

伊藤祐輔(いとうゆうすけ)

株式会社シンプレクス・インスティテュート 代表取締役

1976年早稲田大学理工学部数学科卒業, 1983年同大学大学院理工学研究科後期課程修了. 偏微分方程式論の研究活動のかたわら数学教育を続け, 1989年ソロモン・ブラザーズ・アジア証券(現シティグループ証券)に入社. 株式部長, 株式デリバティブトレーダーとしてマーケットにかかわる. 1999年インドスエズ・ダブリュ・アイ・カー証券(現クレディ・アグリコル証券)に移りトレーディングデスクの再構築を行い, 2000年(株)シンプレクス・インスティテュート代表取締役就任.

免責事項

当資料の内容は, 投資判断の参考として投資一般に関する情報提供を目的としたものであり, 投資の勧誘を目的としたものではありません.

投資に関する最終的な決定は, ご自身の判断と責任においてなさるようお願い致します. 株式会社シンプレクス・インスティテュートでは, 当該情報に基づいて被ったいかなる損害についても, 一切の責任を負うものではありません.

無断転載を禁ず

当資料の全部, または一部を無断で複写・複製・転載, および磁気・高記録媒体に入力することなどは, 著作権法上の例外を除き禁じられています.

株式会社シンプレクス・インスティテュート

〒105-6223 東京都港区愛宕 2-5-1

愛宕グリーンヒルズMORIタワー23階

URL: <http://www.simplexinst.com>

参加者アンケート



※「QRコード」は株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

ご注意事項

- 本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客さまが損害を被ったとしても当社、および情報発信元は一切その責任を負うものではありません。本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製、または販売等を行うことは固く禁じます。
- 必要証拠金額は当社証拠金(発注済の注文等を加味した証拠金×100%)－ネット・オプション価値(Net Option Value)の総額となります。
- 当社証拠金、およびネット・オプション価値(Net Option Value)の総額は発注・約定ごとに再計算されます。
- 証拠金に対する掛け目は、指数・有価証券価格の変動状況などを考慮のうえ、与信管理の観点から、当社の独自の判断により一律、またはお客さまごとに変更することがあります。
- 「HYPER先物コース」選択時の取引における建玉保有期限は原則新規建てしたセッションに限定されます。なお、各種設定においてセッション跨ぎ設定を「あり」とした場合には、プレクロージング開始時点の証拠金維持率(お客さま毎の証拠金掛目およびロスカット率設定に関わらず必要証拠金額は証拠金×100%で計算)が100%を上回っていれば、翌セッションに建玉を持ち越せます。「HYPER先物コース」選択時は必要証拠金額は証拠金×50%～90%の範囲で任意に設定が可能であり、また、自動的に決済を行う「ロスカット」機能が働く取引となります。
- 先物・オプションの証拠金については日本証券クリアリング機構のWEBサイトをご覧ください。
- 指数先物の価格は、対象とする指数の変動等により上下しますので、これにより損失を被ることがあります。市場価格が予想とは反対の方向に変化したときには、比較的短期間のうちに証拠金の大部分、またはそのすべてを失うこともあります。その損失は証拠金の額だけに限定されません。また、指数先物取引は、少額の証拠金で多額の取引を行うことができることから、時として多額の損失を被る危険性を有しています。
- 日経平均VI先物取引は、一般的な先物取引のリスクに加え、以下のような日経平均VIの変動の特性上、日経平均VI先物取引の売方には特有のリスクが存在し、その損失は株価指数先物取引と比較して非常に大きくなる可能性があります。資産・経験が十分でないお客さまが日経平均VI先物取引を行う際には、売建てを避けてください。

ご注意事項

- 日経平均VIは、相場の下落時に急上昇するという特徴があります。
- 日経平均VIは、急上昇した後に数値が一定のレンジ(20~30程度)に回帰するという特徴を持っています。
日経平均VIは、短期間で急激に数値が変動するため、リアルタイムで価格情報を入手できない環境での取引は推奨されません。
- 指数オプションの価格は、対象とする指数の変動等により上下しますので、これにより損失を被ることがあります。なお、オプションを行使できる期間には制限がありますので留意が必要です。買方が期日までに権利行使又は転売を行わない場合には、権利は消滅します。この場合、買方は投資資金の全額を失うこととなります。売方は、市場価格が予想とは反対の方向に変化したときの損失が限定されていません。また、指数オプション取引は、市場価格が現実の指数に応じて変動しますので、その変動率は現実の指数に比べて大きくなる傾向があり、場合によっては大きな損失を被る危険性を有しています。
- 未成年口座のお客さまは先物・オプション取引口座の開設は受付いたしておりません。
- 「J-NETクロス取引」で取引所立会市場の最良気配と同値でマッチングする場合、本サービスをご利用いただくお客さまには金銭的利益は生じないものの、SBI証券は委託手数料を機関投資家から受け取ります。
- J-NETクロス取引の詳細は適宜修正される可能性がありますのでご注意ください。

金融商品取引法等に係る表示

本セミナーでは、セミナーでご紹介する商品等の勧誘を行うことがあります。これらの商品等へのご投資には、商品毎に所定の手数料等をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動等による損失を生じるおそれがあります(信用取引、先物・オプション取引、商品先物取引、外国為替保証金取引、取引所CFD(くりっく株365)、店頭CFD取引(SBI CFD)では差し入れた保証金・証拠金(元本)を上回る損失が生じるおそれがあります)。商品毎に手数料等及びリスクは異なりますので、詳細につきましては、SBI証券WEBサイトの当該商品等のページ、金融商品取引法等に係る表示又は契約締結前交付書面等をご確認ください。

金融商品取引法等に係る表示

https://search.sbisec.co.jp/v2/popwin/info/home/pop6040_torihikihou.html

商号等:株式会社SBI証券 (金融商品取引業者、商品先物取引業者)

登録番号:関東財務局長(金商)第44号

加入協会:日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、一般社団法人 第二種金融商品取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人 日本STO協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人日本暗号資産等取引業協会